

学校だより



みなみたなか

平成24年4月27日
練馬区立南田中小学校
校長 梶谷 雅弘

最先端技術とMDラジカセ

校長 梶谷 雅弘

学校は、最先端技術に敏感でなければならないといつも心掛けてきたつもりですが、なかなか、最先端技術に追いついていないんだなとつくづく感じたことがありました。

それは、5月27日の運動会に向けて練習をする際、MDラジカセが是非とも必要なので、故障したMDラジカセについて新たに購入したいという教員の要望から始まりました。

MDラジカセは、音楽の編集が簡単で、また、振動にも強いいため運動会の表現（ダンス）を指導する際、非常に使い勝手のよい機器です。昨年度も何台か購入したので、当然今年も購入できると安易に考えていたのですが、いくら購入したいと願っても、もう各企業がMDラジカセを製造していないことが判明しました。私も、インターネットで検索しましたが、一軒も販売している店はありませんでした。かろうじて見かけても、プレミアがつき、前年度までの価格の3倍以上するものばかりでした。学校は最先端技術の機器を導入し児童の指導に当たりたいと願っていますが、最先端技術から遠く離れてしまっていると痛感した次第です。



実物投影機を活用した健康朝会

レコードやビデオテープからCD・MD・DVD・ブルーレイディスク・MP3レーヤー等へと、ここ数十年の科学技術の進歩は目覚ましいものがあります。やっと、それらの一つ一つの機器になれた頃、次の製品が発売されているのが実情です。

学校は、その時代の科学技術の最先端から取り残されてしまうことがあるのだと改めて考えさせられました。

こうした中、本校では、実物投影機と液晶プロジェクターを全学級に配備し、授業で活用できるようにしました。

この機器を導入することにより、全児童が一つの画面に集中して説明を聞くことができ、具体的な作業の説明を自分の目で見ながら聞くことができるため、児童の理解がより深められるようになりました。

具体的な作業を説明（低学年でのノート指導、物差しの測り方、分度器の使い方等）したり、ノート等にした児童の考えをそのまま写して説明したりする際に、大きな力が発揮されます。

以前でしたら、画用紙などに考えを書き直してから黒板に貼って説明をしてきましたが、その書き写す時間が必要なくなり、その分、説明やその質問等の時間を増やすことができるようになりました。その結果、児童が友達の考えをじっくり聞く時間が増え、一人一人がより理解を深めることができるようになるのです。

その他、カメラ機能を使い一人一人の考えをSDカードに記録し、後で考え方を比較したりすることも可能となります。教員にとっては、授業を記録し授業を振り返ることも活用できます。

その他、デジカメで記録した映像をリアルタイムに投影することもできます。

このような活用を通して、児童の興味・関心・意欲をさらに高めることができます。

各学級に配備した実物投影機の利点を最大限活用し、児童が主体的に学習に取り組み、「自分の思いや考えをもち、表現できる子の育成」を目指して、校内研究の充実と共に日々の授業実践に努めて参ります。